

県連盟名：南北海道

単位クラブ名：とわの森三愛高等学校

発表分野：クラブ活動発表

(農クコード：10302)

発表題目：TOWA r d 2 0 1 7：酪農特化型農業クラブ

～会則改正から始まる私達の三愛、「躍進」F i r s t S t a g e～

発表者・補助者指名：発表者	アグリクリエイト科	2年	船山	睦月
	アグリクリエイト科	2年	加藤	巧也
補助者	アグリクリエイト科	3年	大森	勇斗
	アグリクリエイト科	3年	岩田	詩歩
	アグリクリエイト科	3年	小林	遥菜

### ① テーマの選定理由・目標・計画

「TOWA r dとは、私達の学校が8年前から使用しているコマーシャルフレーズ」。

というワードで発表していたこの活動報告も、今年で3年目。

3年前私達は Step 1「継承」、Step 2「躍進」、Step 3「革命」の3つの大目標を2年ごとに遂行し、6ヵ年計画での単位農業クラブ改革に着手。

昭和20年代から続く「酪農特化型農業クラブ」である私達は、従来の「神を愛し、人を愛し、土を愛す」という三愛精神とは別に、「農ク愛、酪農愛、人間愛」という単位農業クラブ独自の「三愛」を提唱。

6ヵ年計画3年目、「躍進」First Stageの今年度は「三愛」実現の礎として、約11年ぶりの会則の改正に着手。年間キーワードを、

### 「会則改正から始まる私達の三愛」

と定めることとしました。

そこで今年度のテーマを

「TOWA r d 2 0 1 7：酪農特化型農業クラブ

～会則改正から始まる私達の三愛、『躍進』F i r s t S t a g e～」

と題し、実践目標を次のようにまとめました。

- ① 農ク愛＜科学性＞会則改正により三大事業の学習を加速させ、農業クラブに対する信愛を深めることを目指します。
- ② 酪農愛＜科学性、社会性＞会則改正により、酪農に関する知識・技術を深め、酪農への信愛を深めることを目指します。
- ③ 人間愛＜社会性、指導性＞会則改正により、外部の方々との関りを多く持ち、人に対する信愛を深めるとともに、外部評価獲得を目指します。

### ② 年間キーワード：会則の改正

2006年から触れていなかった単位農クの会則改正に着手。旧会則では5人だった執行部の人数を、近年増加している役員希望者のニーズに合わせて10人まで増やしました。

さらに三大事業の強化を図る為、昨年から非公式で活動している、事業のルール周知を目的とした「レギュレーション委員会」、学習会を企画する「三大事業推進委員会」を追加。

多様化するプロジェクト学習への対応に関しては、第8条の「研究班活動」の最後に、

## 「各研究専攻班は独自の研修会・講習会を企画し、研鑽を図ることが望ましい」

という一文を加えることとしました。

すでに見切り発車している部分ではありますが、今年度動き始めたこれらの改正案は、他の旧態依然とした細かい改正を含め、次の総会で正式決定する予定です。

### ③ 実践目標 1 : 農ク愛<科学性>

大会基準が目まぐるしく変わる中、会則改正によって発足した「レギュレーション委員会」により、特に意見発表・実績発表の基準についてクラブ員への周知を図りました。

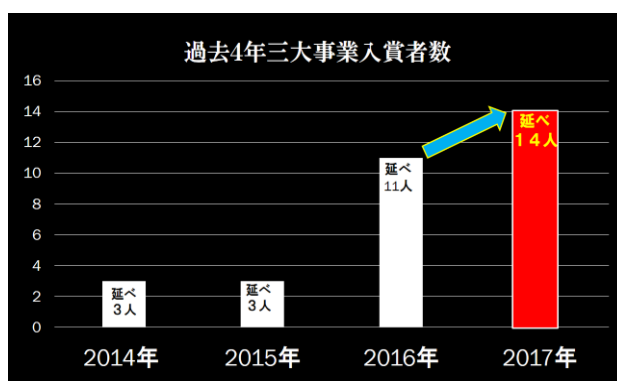
「三大事業推進委員会」では、実験室の一部をお借りして「鑑定部屋」を整備。また放課後の学習会、全寮制を活用した寮でのフルタイム学習会の実施を企画しました。

評価・検証。

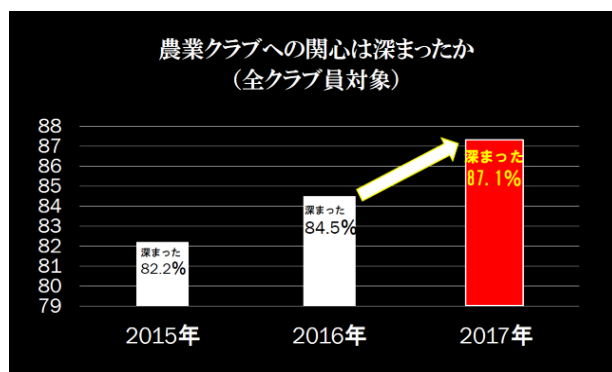
実績発表では昨年南北海道大会で、最優秀賞2つを含む3発表が入賞、全道大会でも1発表優秀賞。南北海道意見発表では3発表入賞。技術競技大会では最優秀賞2つを含む6人が入賞、鑑定競技においては全国大会でも優秀賞を獲得できました。

過去四年間の入賞者数の比較でも、急増した昨年度よりも入賞数を増やすことに成功**(図表1)**。

全クラブ員意識調査での検証。「農ク三大事業への関心は深まったか」というクラブ員アンケート**(図表2)**に対して、87.1%のクラブ員が「深まった」と回答。前年比2.6%のポイントアップ。入賞数・意識調査ともに、成果を得たと評価しました。



(図表1 : 農ク行事入賞数推移)



(図表2 : クラブ員意識アンケート①)

### ④ 実践目標 2 : 酪農愛<科学性、社会性>

私達は酪農特化型農業クラブ。会則改正による、新たなる「研究班活動」の条文になり、先生方の協力を得ながら、執行部・各専攻班プロデュースで、以下の牧場や企業に酪農視察に行きました。

町村牧場様、むらかみ牧場様、小林牧場様、浜辺牧場様、ヤンマー様、コーンズAG様、ニューホランド様。

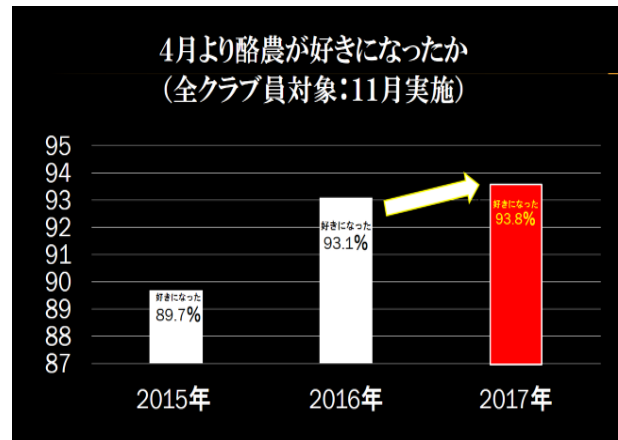
同様に以下の外部酪農研修に参加しました。

ルーメン視察研修、江別市デイリーミーティング、宗谷就農セミナー、新農業人フェア、北海道削蹄研修、酪青研全国大会。

乳牛共進会では共進会班を中心に、希望者で参加できる共進会はすべてに参加。特に「2017北海道ホルスタインナショナルショウ」では、全道で唯一全クラブ員が参加しました。

評価・検証。「春よりも酪農が好きになったか」というクラブ員アンケート（図表3）に、93.8%が好きになったと回答。前年比

0.7ポイントアップ。また「2017北海道高校生リードマンコンテスト」において、全学年本校クラブ員が優勝、静岡県で行われた「セントラルジャパンホルスタインショウ・リードマンコンテスト」でも本校クラブ員竹中君が優勝したことは、酪農特化型農業クラブの私達にとっては、大きな励みとなりました。



(図表3：クラブ員意識アンケート②)

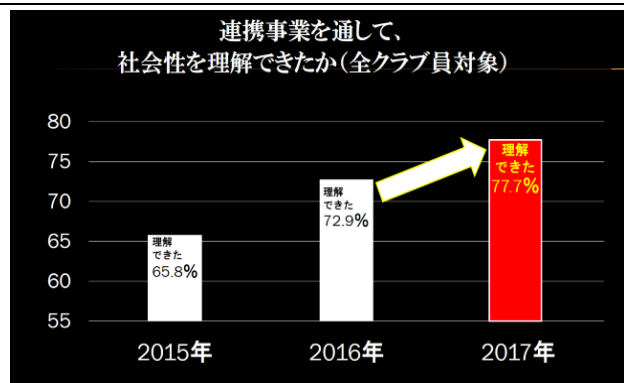
⑤ 実践目標3：人間愛＜社会性、指導性＞

酪農愛と同様、会則改正による、新たなる「研究班活動」の条文にならい、執行部・各専攻班プロデュースで、多くの外部連携事業を展開。

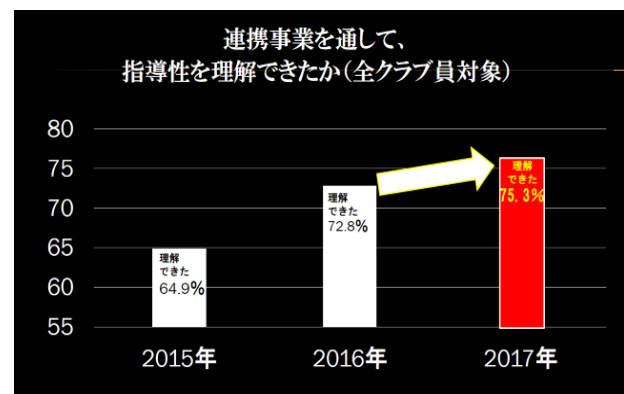
地域の幼稚園児を招き、農場を解放した「なかよしファーム」。酪農を通じて農育・食育を行う、「酪農教育ファーム事業」。OBを講師に招いての「乳製品講習会」。児童施設へ「加工品の無償提供と交流会事業」。

そして私達執行部の企画としては最大規模の「第74回収穫感謝祭」では、クラブ員の家族、OB約160名が来校。活動報告会、地域別運動会、大焼肉大会を実施。

これら外部事業を通して、社会性・指導性の向上を促せるよう意識しました。



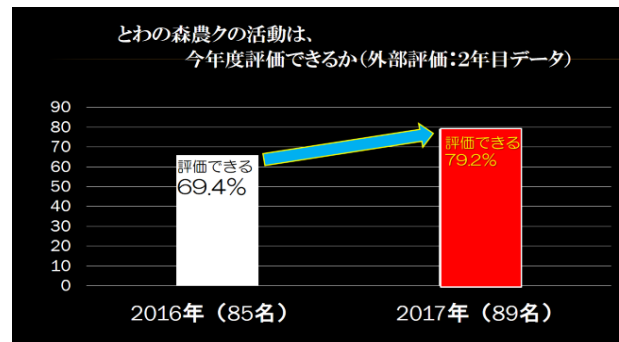
(図表4：クラブ員意識アンケート③)



(図表5：クラブ員意識アンケート④)

評価・検証。「多くの連携事業を通して、社会性・指導性を理解できたか」というクラブ員アンケート（前頁図表4・5）に、それぞれ前年比4.8ポイント、2.5ポイントアップの評価。

今年度連携を持った外部の方々への「とわの森農クの活躍は今年度評価できるか」という質問（図表6）に、前年比9.8ポイントアップの79.2%の方が「評価できる」と回答。少しずつですが、外部評価を得ることにも成功してきているようです。



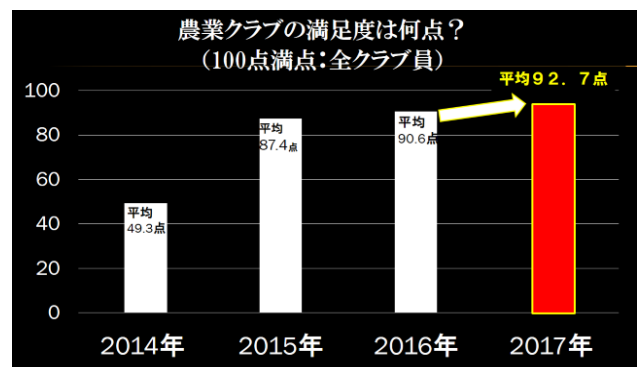
（図表6：外部評価の推移）

## ⑥ 今年度総括

- ① 農ク愛。会則改正で新設された委員会の啓蒙活動により、三大事業の成績が上がり、クラブ員の農クに対する意識も高まった。
- ② 酪農愛。会則の条文追加で、多くの酪農研修を積むことに繋がり、乳牛共進会でも好成績を収めることができた。また酪農への興味も深まった。
- ③ 人間愛。会則の条文追加で、多くの外部連携へと繋がり、クラブ員の社会性・指導性を深めることができた。さらに前年よりもわずかだが外部評価を得たことも特筆できる。

私達の1年間の活動は、その都度ホームページ、ブログ、フェイスブックで紹介され、多くの閲覧数を誇っています。それらの広報活動は「全国農業高校・農業大学校ホームページコンクール」において最優秀賞を獲得することができ、慶應義塾大学での表彰式にも出席。また11月、私達の改革3年間の活動は、全クラブ員が参加した、「日本酪農研究会」において発表の機会を与えられ、多くの称賛を浴びることとなりました。これらのことは、今後外部評価拡大の大きなツールとなりそうです。

最後に全クラブ員が評価する今年度の農業クラブの満足度（図表7）は、前年比2.1ポイントアップの92.7点。



（図表7：クラブ員意識アンケート⑤）

以上、改革3年目、「躍進」First Stageの活動を終了し、この1年間の教訓をもとに、来年度Second Stageへと邁進します。

以上で終わります。